

2023年度の金融市場

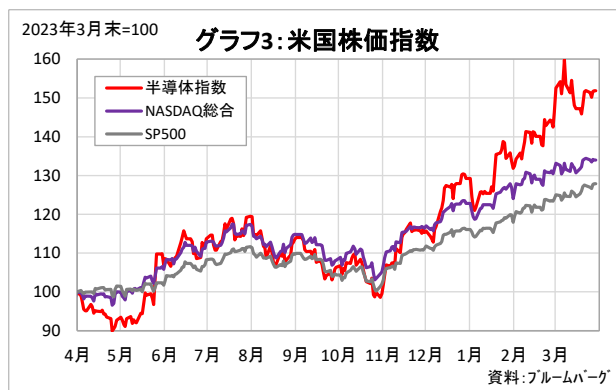
1. 日本の逆襲

2月22日、日経平均株価指数は34年ぶりに史上最高値を更新し、3月22日には一時4万1千円に達しました。年度初より東証改革に対する期待が国内のみならず外国人投資家からも高まるなか4月に米国著名投資家が来日したことで火が付きまして。中国経済の先行き不安を背景に中国株から日本株への資金シフトという見方も強まり、1月末には3年半ぶりに東証の時価総額が上海を上回りました。昨年4月に日本銀行総裁に就任した植田氏は7月、10月会合で2度にわたりイールドカーブコントロール政策（YCC）を柔軟化し、今年3月会合ではマイナス金利の解除とともにYCCを撤廃、株式ETF等の購入の終了も決定し「異次元緩和」を事実上終了させました。春闘での賃上げ率が予想を大幅に上回るという追い風にも恵まれ、日本もようやく「ふつうの金融政策」に戻ったといえます。一方、為替市場では急激な円安が進行し、3月下旬には34年ぶりの安値を記録しました。まさに2023年度は記憶に残る年度となりました。



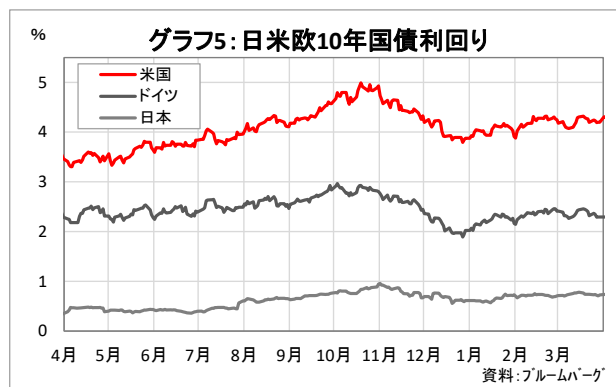
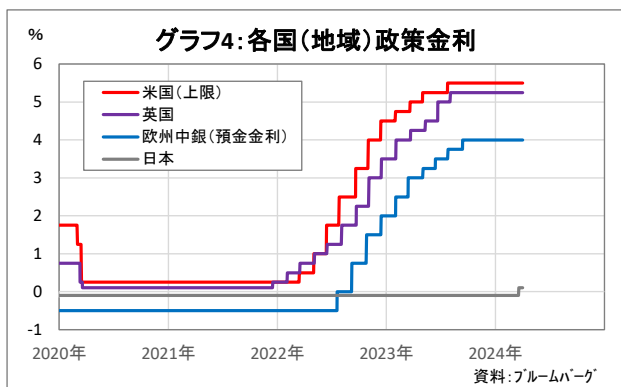
2. AI時代の幕開け

米国株は「マグニフィセント7」と称された大手テクノロジー関連銘柄が市場を牽引し力強く上昇しました。特に年度後半ではAI技術で脚光を浴びたエヌヴィディア社等を含む半導体指数の上昇に拍車がかかり同指数の年度収益率は50%を超えました。グローバルでAIが急速に普及し更なる技術革新に対する期待も高まっており2023年度はAI時代の幕開けと言えそうです。



3. 金融政策の転換

欧米金融当局はコロナ後の経済再開の後、物価が急激に上昇したことから利上げを進めてきました。しかし 2023 年度に入り物価も落ち着きを示し始めたため米国、英国は 9 月会合、欧州中銀は 10 月会合から据え置きに転じました。その他オーストラリアは 7 月、カナダは 9 月会合で利上げを停止、スイスは先進国では先陣を切って今年 3 月会合で利下げに舵を切りました。マイナス金利を解除した日本とは対照的な動きと言えるでしょう。長期金利は年度で米国と日本はやや上昇、ドイツはほぼ横ばいでした。



4. 2つの分断が加速

米中対立は徐々に「民主主義国対権威主義国」という色彩を強めました。5月に広島で先進国首脳会議が開催され、ロシアのウクライナ侵攻を非難するとともに対中政策では「デリスキング（リスク低減）」を目指す方針が示されました。中国は7月に反スパイ法改正に動き、8月には日本の「処理水放出」を激しく非難しました。ウクライナ戦争が膠着状態に陥るなか3月にプーチン大統領は再選を果たしました。10月にはガザ地区を実効支配するハマスの攻撃にイスラエルが激しい反撃を繰り返して中東の地政学リスクも高まりました。1月には台湾で総統選挙が実施され中国と距離を置く候補が勝利しました。

米国政治の分断も激化しました。債務上限をめぐる問題は紆余曲折の末に5月に先送りで合意に至りましたが、大手格付会社は政治への信頼が低下したとして米国債の格下げを発表しました。10月には民主党に譲歩したとして共和党の下院議長が解任されるという史上初の事態に発展しました。3月の予備選が集中する「スーパーチューズデー」ではトランプ前大統領が勝利し事実上共和党候補が決定、「もしトラ」のリスクが金融市場でも話題となりました。

本レポートは筆者の個人的見方であり弊社の公式見解ではありません。

債券運用第一部シニアストラテジスト 菊池 宏

※ 2024年2月以降のレポート

2月 1日号	1月の市場動向と2月の注目点
2月 28日号	異論 為替相場に対する見方 その2
3月 1日号	2月の市場動向と3月の注目点
3月 11日号	先週の重要イベントを振り返る
3月 21日号	日米金融政策決定会合を終えて
4月 1日号	3月の市場動向と4月の注目点

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

登録番号 金融商品取引業者
関東財務局長（金商） 第404号

一般社団法人日本投資顧問業協会会員
一般社団法人投資信託協会会員

〒105-7320 東京都港区東新橋一丁目9番1号
電話 03 - 4223 - 3134

*本資料に含まれている経済見通しや市場環境予測はあくまでも作成時点における弊社ストラテジストの見解に基づくもので、今後予告なしに変更されることがあり、また弊社商品における運用方針と見解が異なることがあります。

*本資料は情報提供を唯一の目的としており、何らかの行動ないし判断をするものではありません。また、掲載されている予測は、本資料の分析結果のみをもとに行われたものであり、予測の妥当性や確実性が保証されるものでもありません。予測は常に不確実性を伴います。本資料の予測・分析の妥当性等は、独自にご判断ください。

*なお、資料中の図表は、断りのない限りブルームバーグ収録データをもとに作成しております。